

編集後記

Editorial Postscript

もう1年以上になる。昨年はCOVID-19によりすべての旅行は中止して、どこにも行っていない。前号の編集後記に書いた社会状況よりも、一層嘆かわしい状況だ。

それでも、代わりに心の旅(内面への道)、あるいはinner transitionをして、環境学習の奥義に辿り着いた。『環境学習原論』(木俣2019)がこの領域における私の到達点だとしていたが、さらにその先に視界が開けた。環境や文明の適正化は科学技術の更なる発展によるのみではなく、特に心の在り様、言い換えれば自然観・世界観、であると何十年か前から気づいてはいた。

そこで、『心の先史時代』(ミズン1996)に出会って以来、ELF環境学習過程においても心の構造について考察を進めてきた。心の構造は一般的知能、博物的知能、技術的知能、社会的知能、および言語知能よりなる。この1年余りの心の旅により、心の構造には機能が一体として伴うことに気づ

黍稷農季人

Kibikibi Nokijin

いた。

心の機能というのは、五感(五官)、第六感(直感・直観)および第七感(教養・良心)であると考えた。そして、心の構造と機能を繋ぎ、心を統合するのは知能間の認知流動性である。ELF環境学習過程における学習プログラム間を繋ぐ流れが、実に認知流動性のことであることに合致した。ここに環境学習原論の奥義があり、心の構造と機能、認知流動性のすべてがELF環境学習過程の枠組みとメビウスの輪のように縫合したのだ。

現代文明が科学技術による解決を過信することなく、環境学習によって自律、自給知足することを提案したい。次第に真の文明(田中正造)、生き物の文明に移行するように努め、できることなら若者たちに未来社会への希望をつないで、幸せになってほしいと、アニミストの私は自然のカミガミに祈願するのだ。

民族植物学ノオト 第14号 (2021) ISSN 1880-3881

発行日: 2021年3月30日

発行所: 特定非営利活動法人 自然文化誌研究会

発行責任者: 植物と人々の博物館 木俣美樹男

所在地: 〒409-0211 山梨県北都留郡小菅村 3337-2
自然文化誌研究会

Ethnobotanical Notes No. 14 (2021) ISSN 1880-3881

edited by Mikio Kimata (Plants and People Museum)

The Institute of Natural and Cultural History,

3337-2 Kosuge, Kitatsuru-gun, Yamanashi Prefecture, Japan 409-0211